



われら同期の桜

小松高校12回卒

(右から) 中山賢一、岸甫、

小村佐一郎、木崎馨山の各氏

質実剛健、文武両道、猪突猛進、自由闊達、自主自立。これら小松高校の校風は、個性溢れる先生方と卒業生によって養われ築かれてきた実績であろう。

令和2年11月3日(文化の日)の小松市文化賞贈呈式で小松高校12回卒の同期の「悪ガキ」が久しぶりに顔を合わせた。

中山賢一は、小松マテール(株)会長としての激務に加え幾多の公務もこなし、木場潟の環境保全や次世代の環境教育などにも貢献し、令和2年の小松市文化賞を受賞した。胸のバラがよく似合う。「我以外、皆我が師なり」が信条の熱血漢である。

小村佐一郎は、小松市で先代からの伝統ある商店を継ぎ、梱包材などを扱う(株)コムラの経営者。中山の小松マテールも重要な納入先の一つという。地元を根を張り、同期の仲間

達からも頼りがいのある要である。

木崎馨山は、縄文時代の神まつりの霊地であつたとされる那谷寺の住職で、白山開山1300年に際し発行された「那谷寺の歴史と白山・泰澄」の著者である。自然の摂理を尊び白山を愛し、ドライラマとも親交があるという。チベットやラオスなどの世界の恵まれない子供達にも手を差し伸べている。

岸甫は、ファナック(株)の専務取締役社長補佐を経て現在顧問。ロボットや工作機械を自動運転する数値制御技術の開発と普及の先頭に立っていた。引退後の73歳から絵画に挑戦した。二科展、旺玄会展、サロン・ドトリス展や、世界最古の歴史あるル・サロン2021展にも入選し、自他共に「半信半疑」。どの顔も79歳の後期高齢者には見えない。

(文中敬称略、岸甫・記)